

# 被表彰者紹介

被表彰者の皆さんを紹介しします(敬称略)。

## ◆厚生労働大臣表彰

### ▽社会福祉功労



小川 篤子  
(栢田)

栄保育園元主任保育士。長年にわたり地域の実情に沿った育児環境の整備や一時保育の受け入れなどに取り組む。千葉県保育協議会海匝支会常任委員や全国保育協議会認定による保育活動専門員を務め、千葉県保育士賞を受賞するなど、良質な保育の提供に尽力されています。

## ◆日本善行会令和7年度秋季善行表彰

### ▽自然と文化財愛護

佐久間陽一(八日市場イ)

※希望により、写真の掲載は控えさせていただきます。

昭和50年から半世紀にわたり、竹製篠笛の制作に取り組み、地域の伝統文化である八重垣神社祇園祭などにおけるお囃子の指導や普及活動に尽力。後任の指導にも当

たるなど、伝統文化の継承と多くの人の篠笛演奏技術の習得に貢献されました。

## ◆統計功労者表彰

長きにわたり調査員や指導員として各種統計調査に従事し、統計調査の推進に寄与されました。

### ▽農林水産大臣表彰



山中 正夫  
(八日市場ホ)

### ▽千葉県知事表彰



椎名 文生  
(八日市場イ)

## ◆千葉県国民健康保険等功労者表彰

▽千葉県国民健康保険団体連合会  
理事長感謝状  
木内 良晴

## 匠瑳探訪

No.238

# 日審への祈り

南神崎を歩く

市内の伝統行事では、実施する人たちの高齢化やコロナ禍を経て取りやめになったものもある中、安産・子育てを祈願する「子安講」などは今なお継続している地域や集落もあります。

市域では江戸時代以前から北部に日蓮宗寺院が分布し、中央部から南部地域には真言宗と天台宗が多く、安産・子育て信仰などにも宗派による違いが見られます。

真言宗寺院の境内や墓地、路傍には「十九夜塔」や小川のそばで死産者を供養する「流れ灌頂」のため「女人講中」がまつた如意輪観音像の石造仏が多く見られ、現在でも塔婆が立てられているところもあります。

日蓮宗寺院では安産・子育て信仰の対象として「鬼子母神」や「七面天女」

などが挙げられ、珍しいものでは南神崎・常教寺境内の「日審供養塔」があります。

市内で1カ所、ここだけにあるこの塔は1828年に、同寺36世日仁の代「当村(南神崎村)の女講中」が願主となり造立しました。

塔正面に刻まれた日審については『日蓮宗事典』などによると、京都生まれで飯高檀林などに学び、江戸時代初期に全国で布教活動など重要な役割を果たした僧侶とされます。出生については母が出産前に亡くなり、かめの中で生まれたとの伝承があり、「壺日審」「子安日審」とも称されたとき、塔側面に日審の功績とともに「若者懐妊は安楽福子を産む」と刻まれ、これが安産・子育て信仰につながっています。

江戸時代の南神崎村は1845年の家数が21軒で、当時としては比較的小規模な村ながら1人の旗本による安定した支配が250年ほど続いたよう

男性は「題目講中」、女性は「日審講中」などの信仰活動が継続されたと推測されます。

3月春彼岸には、今年も「日審供養塔」に塔婆が立てられることでしょう。(市文化財審議会委員・依知川雅一)

閩秘書課広報広聴班

73・0080



日審供養塔

短歌

依知川 雅一 推薦

餌をまきて冬鳥今朝も待つわれは

すずめのお宿の主となりて

鈴木 和子

睦月朝蠟梅咲き初め花びらの

造花にも似て黄色輝く

大木 洋一

雪だるまを雪じろうと名を付けて

帰省の孫はスマホにポーズす

木下 昌子

千葉駅のホームの自販機キャッシュレス

のどの乾きをいやす術なし

福岡 福子

友達と七宝焼を体験す

ペンダントは宝となれり

内藤喜代美

夕焼けが影絵のごとく彩られ

木立と家並み朱と黒となる

古谷由美子

吹き荒れた冬の嵐の去りし空

燃えるが如く茜に染まりて

石井 洋子

石田 健治 推薦

午歳の孫達二人それぞれに

思いあらたに希望を語る

伊橋 裕子

旧友の賀状の届きなつかしく

思ひ認め愚作を一首

伊橋 良子

俳句

椿 和枝 推薦

◆公民館まつり出句の句などから選出

鍋の縁豆腐揺れ来し爛急ぐ

餌箱に光のめぐる春の鳥

初夢はやさしき亡妻のおめでどう

愛想なき床屋の主晩夏光

雨あがる枇杷の産毛が日を弾く

三たす三ひくすはいくつサンタさん

おかわりと小さき茶碗や今年米

石井 洋子  
椎名 晴江  
伊橋 勝利  
那須 恒雄  
山崎智恵子  
吉井 八流  
佐々木之子

石田 健治 推薦

石段を数えて上る初参り

初詣で晴れ着姿は今いざこ

須貝 玉枝  
熱田 和

川柳

勝又 康之 推薦

好きですとチヨコあげた人共白髪

六十年前のあの娘のチヨコ浮かぶ

本命に渡せぬチヨコを食らう夜

バレンタイン誰れにあげよか孫にする

若き日の白馬の王子空の上

バレンタイン気張りすぎたよ財布空

チヨコ贈るお返し倍でお願いね

江波戸京子  
林 長三郎  
鶴野千恵子  
鈴木トシ子  
鎌形 正恵  
鶴澤 澄子  
塩野 京子

石田 健治 推薦

至福どき昭和の香り石鹼は

熊までも寝ずに働く銀世界

石橋 春歩  
熱田真こと

地域おこし協力隊通信

第12回



今月の担当は土屋彰隊員／環境省認定「脱炭素アドバイザー」として、脱炭素社会の実現に向け、市民・事業者・市が協働して取り組む脱炭素化プロジェクトの「脱炭素地域づくり」推進を担当。現在、仲間を募集中！DMをお待ちしています！



「脱炭素ドミノ」のはじまり

今から一年前、匝瑳市に初めて訪れ、ソーラーシェアリングの取り組みを始めとした「脱炭素地域づくり」に触れた県内の若者たち。地域課題を解決するための取り組みはもちろん、匝瑳市の魅力と可能性を体感した若者たちは、その後SNSを活用して発信、その広がりから同じ志や希望を持った仲間を募り、今年1月にこの地へ導いてくれました。市内からも活動に手を挙げるメンバーも増え、広がりを見せていま

す。まさに私たちが目指す「脱炭素ドミノ」の小さなはじまりです。

この地を訪れる若者たちは、決して明るい希望や夢を抱いているだけではありません。地球規模で温暖化が進み悲鳴を上げる自然環境を目の当たりにしています。また農業への悪影響や危機感、そんな将来への不安を抱きながら解決策を求めて行動を続けています。

将来世代にツケを残すことに罪悪感を感じる人も少なくないでしょう。解

決に向け行動を起こす若者たちを起点に、我々大人世代も環境問題が手遅れになる前に共に行動していきましょう。



ソーラーシェアリングの畑を視察